



菩提樹

佛さまに育てられる年輪

第11号 平成25年4月発行



編集・発行
正法寺

山口市江崎2710

TEL
083-989-2213

FAX
083-989-5339

「念仏者は無碍の一道なり」

(歎異抄第七条より)

—— さわ 障りなく届くお慈悲の光に照らされて ——



国宝 鏡の御影

正法寺公開講演会・三〇年の歴史を刻んで…



正法寺住職 眞城 眞信

正法寺公開講演会は、山口南組の即如御門主御巡教を正法寺がお引き受けしたことを御縁として、昭和五十八年に始まりました。第一回目に東井義雄先生をお招きしたことに始まり、昨年、養老孟司先生をお招きした第三〇回に至るまで、一年も途切れることなく三〇年の歴史を刻んできました。全国的にお寺離れが進む中、御門徒のみならず広く地域の中にも、阿弥陀如来のお慈悲が届いてほしいとの前住職の強い思いが、綿々とこの公開講演会が続いてきた出発点になっています。

これまで、公開講演会にお越しくださった先生方は、僧侶の方のみならず、教育界、文学界、医療現場など、各分野の第一線で活躍されな

がら、内面にお念仏の味わいを深めていらっしゃる方々です。それぞれの貴重な御経験の中で深めてこられた豊かな宗教的世界は、仏縁の薄い方々にも深く新鮮な響きとして届き、それによって地域の中にお念仏の輪が確実に広がっていきました。現在、二〇〇名前後の方々が、毎年楽しみにしてお参りくださいます。



東井 義雄 先生



ひろ さちや 先生



養老 孟司 先生

これからも、すばらしい先生方をお招きし、お念仏の輪がますます広がってゆく、ありがたい御縁として、この公開講演会を続けていきたいと思えます。毎月の御法座と共に、御門徒方のたくさんのご参詣をお待ちしております。



鏡山 正見 先生



雪山 玲子 先生

正法寺・嘉川保育園公開講演会講師一覧

- 第1回 東井 義雄 先生 「家に心の灯を」
- 第2回 高 史明 先生 「いのちを見つめて」
- 第3回 竹下 哲 先生 「心を育てる教育」
- 第4回 矢崎 節夫 先生 「金子みすゞの人と作品」
- 第5回 佐々木 久子 先生 「生かされて」
- 第6回 駒沢 勝 先生 「親と子」
- 第7回 西元 宗助 先生 「人間が人間になるために」
- 第8回 中川 志郎 先生 「動物にみる子育てのヒント」
- 第9回 岡部 伊都子 先生 「愛しみ合う力ー慈悲は呻くー」
- 第10回 無着 成恭 先生 「人それぞれに花あり」
- 第11回 雪山 玲子 先生 「逢えてよかったね」
- 第12回 ひろ さちや 先生 「ご縁の世界」
- 第13回 向坊 弘道 先生 「よみがえる命」
- 第14回 中田 武仁 先生 「厚仁の信じたもの、
追い求めたもの、そして残していったもの」
- 第15回 鹿島 和夫 先生 「子どもの心に学ぶ」
- 第16回 亀井 鑛 先生 「大人になろう」
- 第17回 岡 百合子 先生 「私の歩んだ道ー歎異抄に学びつつー」
- 第18回 松田 正典 先生 「いのちの伝承ー教育の根幹を考えるー」
- 第19回 小川 一乗 先生 「21世紀を迎えてー今、人間を考えるー」
- 第20回 五木 寛之 先生 「慈のこころ 悲のこころ」
- 第21回 津本 陽 先生 「私の中の親鸞」
- 第22回 佐々木 久子 先生 「ゼロでもいいじゃないですか」
- 第23回 菅原 浩志 先生 「山口の魅力、心の宝」
- 第24回 富田 富士也 先生 「還る家をさがす子どもたち」
- 第25回 青木 新門 先生 「いのちのバトンタッチ」
- 第26回 結城 思聞 先生 「いのちみつめて」
- 第27回 田畑 正久 先生 「生きることの意味」
- 第28回 浅田 正博 先生 「親鸞聖人と比叡山の修行」
- 第29回 観山 正見 先生 「かなたからのひかり」
- 第30回 養老 孟司 先生 「生命の不思議」



岡 百合子 先生



青木 新門 先生



向坊 弘道 先生



五木 寛之 先生



正法寺門徒の伝統——地域で守る聞法のご縁・藤河内地区——

宇部市小野区の藤河内地区は、在

住する全戸が浄土真宗門徒という、

正法寺門徒の中でも、お念仏の土壤

が特に豊かな場所です。現在、過疎

化が進み、26戸の戸数ですが、その

内、10戸が正法寺門徒、残りが宇部

市厚東にある正覚寺様の御門徒で

す。藤河内地区のお念仏を大切にす

る伝統は、地区の公会堂が、寺院化

されているところに表れています。こ

の公会堂は、元は、1660年(万治6年)に

曹洞宗の寺院として建立されたと言

えられています。その時の寺号は、

「妙燈山分国寺」。理由は定かではあ

りませんが、1676年(寛文13年)に建て替

えられた頃に、浄土真宗の寺院となっ

たようです。

現在の建物は、1884年(明治17年)に

再建されたものですが、この再建以

後、昭和30年頃にかけて、毎月13日

を13日講と定めて、盛大に御法座が

開かれていきます。現在、毎月の御法

座はありませんが、5月に親鸞聖人

の降誕会と永代経法要、11月に親鸞

聖人の報恩講が、毎年途切れること

なく勤められています。昔は、堂守と

して、僧侶の方をお迎えしていた時

期もあったそうですが、現在、これら

の毎年の仏事は、正法寺の住職と正

覚寺の御住職が、隔年交代で勤めて

います。藤河内地区の方々には、正法寺

や正覚寺といったお手次ぎのお寺と一

緒に、地域のお寺も、自分たちの聞法

の場として大切に護持されてきたの

です。

御法座が開かれる日は、当番の

方々が、御自分の手で本堂のお荘厳

を整えられます。そして、仏旗をかか

げ、喚鐘を打ち鳴らして御法座をお

迎えされるのです。そこには、お寺が

主催する行事ではなく、地域が主体

となった自分の為の御法座という意

識が根付いています。

現在、藤河内地区は、過疎化と高

齢化の大きな波が押し寄せていま

す。これまで続いてきたお念仏の温か

い伝統を次代に伝えていけるかどう

かが大きな課題になっています。しか

し、長い時間をかけて培ってきた土徳

は、そう簡単に消えるものではありません。

一歩足を踏み入れると懐かし

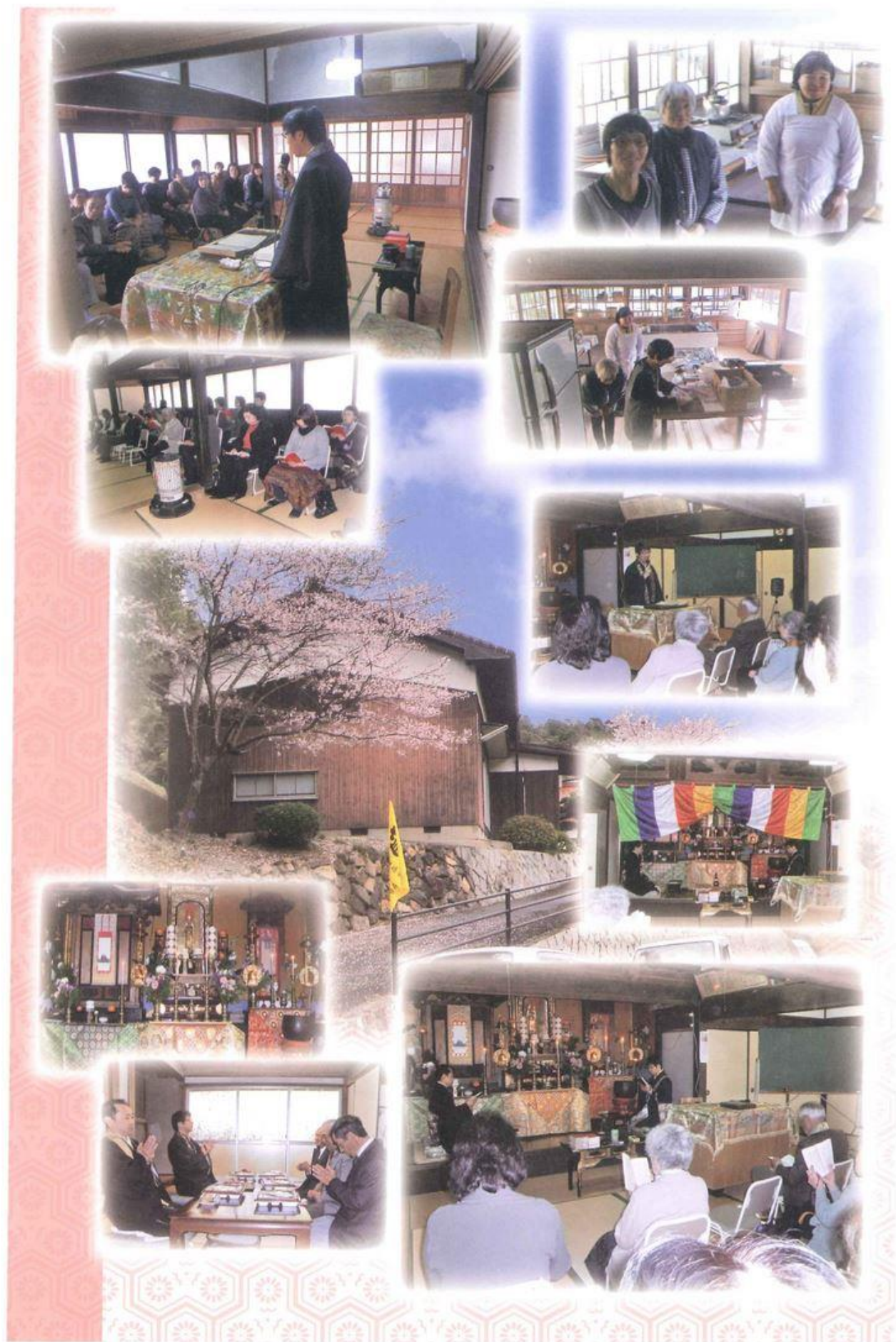
いお念仏の薫りがする、そんな素敵

な場所があることを、正法寺門徒と

して大切にしていきたいものです。

(住職)





心に残る思い出

○子どもものころ、祖母に連れられて参った本堂で、大きな柱にかくれるように寄りかかつて眠るのがとても気持ちよかつた。

○前坊守様が、盆踊りの絵で作った組立てやぐらを持参したとき、たかが木材でできたものなのに、とてもいいねいに扱われていたことに感銘した。

○若いころの盆踊り仮装大会。仲のよかつた友だちと参加していた。ほくは「怪傑ゾロ」に扮して見事優勝。前住職様から賞品のゴムボートをいただいた。今でも夏になるとなつかしく思い出される。

○昭和31年の本堂焼失のあと、母や仏様の役員の方々の、浄財集めをされていた白装束と細い足、きりつと結ばれた口もとの印象が、今も強烈に残っている。



○仏壮発足(昭和41年)のころ、ほとんどの会員が現職のままであつたが、何かを求める熱気があつた。当時、山口教区の仏教壮年大会は小郡の農協会

御門徒の声

仏社会員に聞きました

館で行われていたが、(現在の山口別院がまだできていなかった)その準備のために、聖歌隊(のちの仏教青年会)の人といっしょに、前日から机を運んだり会場を作ったり、当日の受付の手伝いなど、当然のことのように、よこんでさせていただいていた。

あのころ、前住職様のお誘いで役員をつとめさせていただいたことが、ありがたいことだつたと、今思い返される。

み教えに導かれて

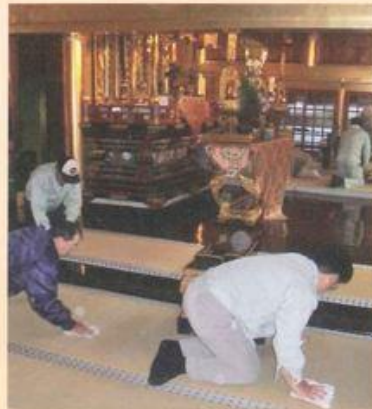
○子どもものころ、雨の日納屋の方へ行くとき、父が縄をなつたりむしろを編んだりしながら、いつも声を出してお念仏を称えていた。私は「仏さまの前でもないのにお念仏を称えている、仏さまの前だけでよいのに」と思っていた。

ところが、大人になってある所のお葬式にお参りしたとき、喪主の方が「わが家は、楽しいとき悲しいとき、うれしいときさびしいとき、いつもお念仏の声が充満していた」と挨拶されました。父の姿はこれだつたのかと気がつき、今は私も声に出してお念仏のご縁をいただいている。

○日曜学校の子どもや仏教青年会の世代の方々が何か悩みをもつたとき、お寺へ相談にお参りしてくれるようになるとうれしい。親に相談できないことも、住職様や坊守様に相談できるような子どもたちに育つてほしい。

そのためにも、御門徒の子どもさんみんな日曜学校に入るようになるとうれしい。
わが家は、嫁が孫を連れて日曜学校に行つてくれる。ありがたいと感謝している。

○法座では心をうたれる。法話が聴ける。せつかくの法座に三〇代や五〇代の方々もお参りしていただけるよ



う、おたがいに呼びかけよう。
○正法寺には、すばらしい住職様と坊守様がおられるし、私たち門徒のために、世代に応じた開法の組織や体制も整えられている。これからも、お二人の思いを総代会をはじめ各組織が自分のこととして受けとめ、連携を強めてみ教えを求めていきたいと思う。

親鸞聖人銅像建立と「鏡の御影」

この度、御門徒有志の厚い御懇念により、正法寺境内に親鸞聖人のお像が建立されました。親鸞聖人のお像のお姿で、一般的によく見かけるのは、笠をかぶった旅をするお姿です。これは、流罪後の親鸞聖人の御苦勞を偲ぶお姿が大切にされているからでしょう。しかし、こ



の御影(表紙に掲載)とよばれる御本山所蔵の国宝の絵像を元にしたお姿です。「鏡の御影」は、文字通り、親鸞聖人を鏡に映したように、聖人の相貌を最もよく描き出した名作として知られています。親鸞聖人の往年の面影が、最もよく偲ばれるお姿といえるものでしょう。正法寺の山門



う。正法寺の山門をくぐると、まずこのお像が目飛び込んできます。親鸞聖人の御高德を偲びつつ、お念仏のお心に耳を傾けさせていただきましよう。

親鸞聖人銅像施主名

- | | |
|----------|----------|
| 小野尻 田中省信 | 前寺内 末岡長寿 |
| 瀧畑 藤岡 保 | 高根上 久保 實 |
| 宮ノ原 松村哲男 | 渚 河村昭治 |
| 厚東 渡辺礼二 | 後寺内 有田 裕 |
| 玄珍 白井 晃 | |

金光 真次さん ご寄進紹介

この度、今井地区の金光真次さんが、満百歳をお迎えされたことを御縁に、お内陣正面の御簾を御報謝くださいました。



金光 真次さん
100才



お内陣正面の御簾

寺族 あるはむ



くみょうちょう
「共命鳥」

あみださまのおしょうどにすむとります。かおは、ふたつで、からだはひとつです。いのちがつながっています。 まきかずなり (夏休みリサイクル工作作品、新発意による作品説明)



小学校に入ってご法座のご縁にあうことが難しくなりましたが、休日にご法座が重なることと張り切ってお手伝いしています。(仏旗を掲げています。)



今のところ「お手伝い大好き♡」です。



「魔法のランプみた〜い!魔法使い出てくるかな〜?!」

「報恩講」



報恩講のお餅盛りのお手伝いをしてくれました。「ワクワクするね〜!」と大喜びです。



今年も「お内仏御取越報恩講」と「報恩講」に出動いたしました。

正法寺コーラス 芬陀莉華

芬陀莉華の会員は只今二十四名です。活動としては、山口教区仏教音楽連盟による年一回の大会への出演と、正法寺仏婦大会での発表。又、報恩講初日の午後と降誕会初日の午後の御法座を、芬陀莉華の研修として誘い合せて、お参りするようになっています。歌の練習は毎月二回土曜日の四時から一時間程度です。理想は高いのですが、音符についていけないか、歌詞は覚えられず苦戦しています。しかし、先生方の優しく、丁寧な指導の元、大会前には、ぐっと形になっていきます。広い本堂で準備運動をした後、日常を忘れて、のびのびと歌の練習が始まります。ピアノに合わせて調子に乗ってきた頃に終わります。しかし気が付けば仏教賛歌の味わいの中にあることに気付く、そんな一時間です。終了後は、皆で生活信条を唱えます。時折、小さな法響さんや如恵さんの「ひ・と・つ」に続いて申す時は、楽しさが倍増します。又、今年から、男性会員を迎え、念願の混声合唱団



原田 世都子 先生



西村 朋子 先生



大ホールに響く歌声

となりました。これまでの大会で、唯一若い男性指揮者だった御院家様が一緒に歌われることになりました。会員、いささか緊張気味ですが、厚みと幅の増した合唱を、今年、長門の会場で発表できたらと思っています。仏教賛歌は誰にでも歌い易く、口ずさめる歌です。如来様の元、上手も下手もなく、心を合わせて歌う事に尽きるのではないのでしょうか。お気軽な入会、参加を心からお待ちしています。



男性も参加しての練習



仏婦大会での披露

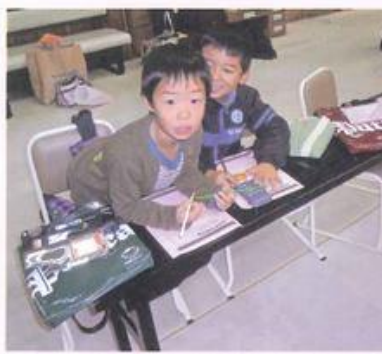


御住職と歌詞を味わう



①お母さん方による 梱包作業。

④絵や英語も使って工夫して書いています。



③楽しくメッセージを書いています。

日曜学校 親子ダーナ 活動

十二月、日曜学校で

ダーナ活動を行いました。

- ①東北自立支援団体の「布ぞうり作りプロジェクト」に参加しました。子どもたちの着なくなったカラフルなTシャツを材料に東北の方々が「布ぞうり」を作られます。販売され、東北の方々の自力の一助になるといいですね!!
- ②モンゴル国立小児がんセンターへ緑茶と子どもたちのメッセージを送りました。

送料は仏教婦人会ダーナ基金より助成いただきました。有難うございました。



⑤皆さん、沢山持って来て下さいました。

編集後記

この度は、公開講演会二十年の思い、守り続けられている藤河内地区の法灯を中心に編集しました。
東日本大震災の復興はこれからです。真宗門徒としてお念仏を称えつつ、被災地の皆様に寄り添って参りましょう。

正法寺ホームページ <http://www.shouhouji.com/>

「山口市正法寺」で検索して下さい。

検索

毎月更新しています。過去の菩提樹もすべて閲覧できます。